

小学校における PCAGIP 法を用いた事例検討の一考察

宮本 純子

A discussion on the case conference based on
the PCAGIP method for elementary school.

Junko Miyamoto

Abstract

This study examined the effectiveness and challenges of using the PCAGIP method for case studies in elementary schools by qualitatively analyzing participants' descriptions of their impressions of the PCAGIP method in three elementary schools where the author works as a school counselor. The results showed that the PCAGIP method has many advantages in elementary schools, such as the abundance of solutions, the improvement of the atmosphere, sharing problems with everyone and the ability to obtain information from former homeroom teachers. On the other hand, it was pointed out that the benefits are great but time consuming and some expressed frustration at not being able to find a clear direction. In the future, it will be important to spend a little more time examining case studies using PCAGIP, staying close to case providers, and deeply understanding cases. By doing so, it is thought that the case provider will find his own way. In addition to the issue of time, it was suggested that consideration should be given to the relationship between members and how the facilitator proceeds.

Keywords: PCAGIP method, case conference, elementary school

1. 問題と目的

近年、学校現場で PCAGIP 法を用いた事例検討が行われるようになってきた。PCAGIP 法とは「事例提供者による簡単な事例提供資料からファシリテーターと参加者が協力して、参加者の力を最大限に引き出し、その経験と知恵から事例提供者に役立つ新しい取り組みの方向や具体策やヒントを見出していくプロセスを学ぶグループ体験である」と定義

される（村山・中田，2012）。事例検討会で発表者が被告にされるようなことがあることから，その問題を解決するための事例検討法として村山・中田（2012）によって開発された。教員の研修会等でも用いられるようになり，その有効性も示されるようになってきている。

南・松本（2018）は，中学校教師を対象とした事例検討を行い，PCAGIP法を用いた事例検討のあとでは，援助を受けることに対する教師の懸念や抵抗感が軽減されることを実証的に示した。また，坂本（2011）はスクールカウンセリングにおける教員研修の場でPCAGIP法を参考にした事例検討を行い，研修を通してスクールカウンセラーと教員間で共通の姿勢が確認されることにより，スクールカウンセリング活動の基礎となる校内連携を強化する可能性が示唆されたと報告している。

一方，藤中（2022）は，学校の生徒指導の事例検討会にPCAGIP法を適用するにあたって，どのような困難な面があり，どのような利点があるのかを見極めておくことが重要であると述べ，自身の小学校と中学校の事例検討会でPCAGIP法を適用した試みを報告した。その報告の中で，時間をかけてやるのがPCAGIPをPCAGIPたらしめている大事な点であると述べ，その時間の確保ができない場合は本質が抜け落ちた形式的PCAGIP法を実施することになり，意義があると感じられないことを指摘した。

筆者もこれまでにスクールカウンセリングにおける研修会でPCAGIP法を活用した事例検討会を行ってきた。藤中（2022）が提案するような時間の確保は難しく，60分くらいの事例検討になっていたこともある。藤中（2022）はPCAGIP法を用いた事例検討が60分では共同作業による事例理解のプロセスの共同体験が起こりにくいため，PCAGIP法の効果である事例提供者の自己肯定感の高まりや自己効力感の高まりなどが体験しにくいと述べている。さらにそういった体験をできないのであれば，形式だけをPCAGIP法に近づけた，よくわからない事例検討会になりかねないとも述べ，非常に短い時間でPCAGIP法的なやり方の事例検討会が広がるならば，学校現場にとっても不幸なことだと警鐘を鳴らしている。実際，筆者が行った60分くらいのPCAGIP法を用いた事例検討では事例提供者の自己肯定感や自己効力感の高まりは顕著に見られなかった。しかし，PCAGIP法を適用した事例検討会終了後の教師の雰囲気が和気あいあいとして，とても和やかな感じになることを実感し，参加者の心の中にささやかに起こっている変化を感じざるを得なかった。事例検討後の教師の表情が明るく，会話も弾むのである。60分という短いPCAGIP法を用いた事例検討会では時間がないことによる事例理解の共同体験が深まりにくいにもかかわらず，どのような効果もたらされているのであろうか。また，事例提供者の自己肯定感が高まらないのは，時間の問題以外に他にも不十分な点があるのではないだろうか。それを明らかにしておくことは，時間の確保が難しい学校現場で事例検討を行わなければならない場合に，どのような工夫を行えば時間が短くとも本来のPCAGIP法に近づけるのかを知る手がかりになる可能性がある。

そこで、本研究では筆者が小学校の研修会で行った PCAGIP 法を用いた事例検討の実践をもとにその利点と問題点を検討することを目的とする。

2. 方法

(1) 調査対象者

A 市の小学校教員 41 名 (B 小学校 20 名 C 小学校 13 名 D 小学校 8 名) を対象とした。20 代(男性 2 名 女性 2 名), 30 代(男性 2 名 女性 2 名), 40 代(男性 5 名 女性 8 名), 50 代(男性 6 名 女性 14 名)であった。

(2) 調査手続き

2017 年 7 月～8 月に、筆者がスクールカウンセラーとして勤務している A 市内の小学校 3 校の研修会に PCAGIP 法を用いた事例検討を行った。事例検討会終了後にアンケートを依頼した。

(3) 調査内容

- ①年齢 (年代) , 性別
- ②PCAGIP 法を用いた事例検討についての感想の記述
- ③PCAGIP 法を用いた事例検討について気づいたメリットとデメリットの記述

(4) 事例検討の概要

それぞれの学校において、事前に教育相談担当の先生に PCAGIP 法の概要を説明しておく。事例提供者を選ぶ。グループは、事例提供者、ファシリテーター (筆者)、記録係 2 名、メンバー 8 名程度で構成する。ホワイトボードを 2 枚準備する。B 小学校は参加者が多いので、金魚鉢方式 (グループ以外の参加者はグループを取り囲んで見守りながら参加してもらおう方式) を用いる。はじめに PCAGIP 法について筆者が参加者に簡単に説明する。

1) 実施方法

第 1 ステップ

- ①事例提供者による事例の説明 (概略を B5 1 枚 5 行程度にまとめる)。
- ②メンバーは事例提供者に事例の状況を理解するために質問する。
- ③質問者はファシリテーターの指示で 1 問ずつ順番に行う。
- ④記録者は、質問とその反応をホワイトボードに書き残してゆく。
- ⑤質問が一巡したら、ファシリテーターはいったん整理する。
- ⑥さらに質問と回答を続け、出そろった頃ファシリテーターは共有事実や状況を整理する。

第 2 ステップ

- ①参加者が必要な援助について考え提案する。出てきた案をまた皆で考える。
- ②事例提供者にヒントが生まれることをめざす。
- ③最後にファシリテーターがまとめ、事例提供者の感想を聞く。

2) 禁止事項

- ①メモを取らない。
- ②他者を批判しない。

(5) 分析方法

PCAGIP 法を用いた事例検討についての感想およびメリットとデメリットの自由記述を、KJ 法 (川喜多, 2017) を参考に整理した。はじめに筆者が感想も含めた自由記述のメリットとデメリットをカードに書き込み、カードの中から類似しているもの同士をまとめてグループ化し、そのグループの内容を端的に表すことができると思われる見出しを作成し、サブカテゴリーとした。さらに関連のあるサブカテゴリーをまとめ、カテゴリー化した。メリットとして記載した内容は 130 件、デメリットとして記載された内容は 40 件であった。さらに心理臨床家 1 名とこのプロセスを協議の上確認をし、修正を加え、最終的なカテゴリーを決定した。各カテゴリーの意味内容を示すと思われるカテゴリー名を検討し、合議の上決定した。

3. 結果

分析の結果、PCAGIP 法を用いた事例検討のメリットは【視点の増加】【PCAGIP のルール】【学びの広がり】【問題と方向性の共有】【温かな気持ち】【取り組みやすさ】の 6 つにまとめられた (Table1)。PCAGIP 法を用いた事例検討のデメリットは【結論のなさ】【時間の問題】【メンバーの問題】【個人および情報の問題】【発表者の負担】【応用困難】の 6 つにまとめられた (Table2)。以下の文章中でカテゴリー名を【】、サブカテゴリー名を『』、件数を ()、自由記述の内容を「」に示す。

(1) PCAGIP 法を用いた事例検討のメリット

【視点の増加】(50) は最も記述件数が多かったカテゴリーである。『いろいろな視点』(13)、『多様な考え』(12)、『背景の理解』(6)、『新たな視点』(5)、『豊富なヒント』(4)、『肯定的な視点』(3)、『見方の広がり』(3)、『引き出しの増加』(2)、『手立て』(2) の 9 つのサブカテゴリーに分類できた。「多様な視点から意見が出て多くのヒントをもらえる」「みんなで考えると自分自身にない発想に出会える」など、視点が増えることがあげられている。

次に多かった【PCAGIP のルール】(23) は、『否定のない発言』(7)、『可視化』(6)、『全員一言』(5)、『準備の少なさ』(5) という 5 つのサブカテゴリーに分かれ、本来 PCAGIP 法の持っている良さが表れている。「否定しない話し合いなので、温かい雰囲気ですべて安心して話すことができる」「事例提供者を否定するようなことを言わないので、とてもいい」など、事例提供者を被告にしないという PCAGIP 法のコンセプトが利点としてあげられていた。

【学びの広がり】(19) は、『参加した人の学び』(7)、『自分の学級の参考』(6)、『理解の深まり』(2)、『責任・支援』(2)、『応用』(2) の 5 つに分類された。「当事者でなくて

も、自分ならではの考えることができるやり方だと思った」「いろいろな質問により、その子の理解が深まる」など、一人の子どもの理解が深まるとともに、自分のクラスの問題点と重ね合わせて広がりを見せていた。

【問題と方向性の共有】(14)は『共同探索』(6), 『共有』(5), 『共通理解』(3)の3つに分類できた。「知恵を出し合って解決の方法を探る方法として大変興味深い」「問題や困り感を共有してもらえるので気を楽しみ持てる」など、皆で共有することや皆で方向性を見出すことに意義を見出していることがわかる。

【温かな気持ち】(13)は『負担軽減』(6), 『一体感』(3), 『楽しさ』(2), 『チーム学校』(2)の4つに分類できた。「一人で抱えていた人がふっと心が軽くなる」「一体感と深い信頼感が見られた」など、一体感や信頼感が生まれたり、心が軽くなったり、温かな気持ちに変化していることが示唆されていた。

【取り組みやすさ】(11)は『安心』(3), 『分かりやすさ』(3), 『深い検討』(3), 『集中』(2)の4つに分類できた。「自分が思ったことなどを自由に安心して言える」「一つの事例に対して、細かいところまで掘り下げた話し合いができる」など、安心して掘り下げた話し合いができるという取り組みやすい事例検討法であることが示された。

(2) PCAGIP 法を用いた事例検討のデメリット

【結論のなさ】(10)は『結論への思い』(6), 『提案の難しさ』(4)の2つのサブカテゴリーに分類できた。「どういうやり方がかかわっていくかなど、具体的なものもほしい」「話し合いがまとまらないので、もやもとした気持ちも残る」など、はっきりとした結論が出ないことに対する不全感を持っている様子を伺わせる。

【時間の問題】(9)は、『時間の確保』(6), 『検証する機会』(3)の2つのサブカテゴリーに分かれ、「メリットは大きいですが、時間のかかることだと思う」「検討が必要な児童は少なくなく、時間の確保が難しい」など、PCAGIP 法を用いた事例検討はメリットはあるが検討には時間がかかり、忙しい日常では時間の確保が難しいということがあげられていた。

【メンバーの問題】(9)は、『偏り』(3), 『子ども理解の違い』(3), 『メンバー次第』(2), 『知らない人の意見』(1), の4つに分類された。「参加した人たちの意見、アイデアに限られてしまう」「対象としている子のことを詳しく知っている場合とそうでない場合の違いが出る」など、その日に参加したメンバーによって話し合いが偏ったり、違いが出る可能性があることを示唆した。

【個人および情報の問題】(7)は『発言内容の反省』(3), 『情報の問題』(3), 『メモ』(1)の3つに分類できた。「手立てを出し合う時に自分の失敗例を話せばよかった」「個人情報にかかわることが多くなるのが難しい」など、PCAGIP 法のデメリットというよりも他の方法でも起こりうる問題があげられていたが、PCAGIP 法を用いることにより、それが顕著に表われやすいことが示唆された。

【発表者の負担】(3)はサブカテゴリーがなく「たくさんの人に質問されて、担任の先生は大変だったなという気がした」など、発表者は事例の資料作りはしなくてよいものの、先生方からの質問に答えていくのが大変ではないかという声が出ていた。

【応用困難】(2)もサブカテゴリーがなく、「今回はFacが進めたが、誰でもできるわけではないので、いつでもどこでも使えるやり方ではない」など、司会進行のとらえ方によってはPCAGIP法を用いた事例検討を進めるのが難しいのではないかという考え方を示した。

Table 1 PCAGIP法を用いた事例検討のメリット（複数回答） N=41

カテゴリー	サブカテゴリー	長所	
		件数 (%)	記述例
視点の増加	いろいろな視点	13 (10.0)	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな視点から質問してもらい気づいていない部分に目を向けた。 ・いろいろな角度から話を聞くことができ学びになった。 ・さまざまな視点からの見方や対処法が出てきて勉強になった。
	多様な考え	12 (9.2)	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な視点から意見が出て多くのヒントをもらえる。 ・いろいろな解決策が出され、自分に合うものを考えて対応して言える。
	背景の理解	6 (4.6)	<ul style="list-style-type: none"> ・前担任、校長先生、生活指導の先生の話聞き、背景が見えた。 ・たくさんの先生方が児童を知っていたので、家庭状況を知れた。
	新たな視点	5 (3.8)	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなで考えると自分自身にない発想に出会える。 ・質問を受ける中で、新たな視点でその子を捉えることができる。
	豊富なヒント	4 (3.1)	<ul style="list-style-type: none"> ・たくさんの取り組みのヒントが出されたのは良かった。 ・たくさんの考え方や方法を知ることができた。
	肯定的な視点	3 (2.3)	<ul style="list-style-type: none"> ・良い面を見つけだして共有するというプラス思考がよい。 ・前向きな意見を出すよう声掛けしていただいて良かった。
	見方のひろがり	3 (2.3)	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな見方ができるようになり、見通しも広がる。 ・自分の見方が広がる。
	引き出しの増加	2 (1.5)	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の引き出しが少し増えた。
	手立て	2 (1.5)	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な手立てを立てられる。
PCAGIPのルール	否定のない発言	7 (5.4)	<ul style="list-style-type: none"> ・事例提供者を否定するようなことを言わないので、とてもいい。 ・否定しない話し合いなので、温かい雰囲気でき安心して話すことができる。
	可視化	6 (4.6)	<ul style="list-style-type: none"> ・問題点と方策が可視化できるのはいい。 ・板書で整理されるので、情報が混乱しなくてわかりやすい。
	全員一言	5 (3.8)	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一言だったので、参加している意識が高まる。 ・全員一言だったので「何を言おうか」と知恵を絞ることができた。
	準備の少なさ	5 (3.8)	<ul style="list-style-type: none"> ・事例資料に多くの労力を割かずに検討ができる。 ・事例発表者の負担も少ないし、質問を受ける中で見つめ直せる。

Table 1つづき① PCAGIP法を用いた事例検討のメリット（複数回答） N=41

カテゴリー	サブカテゴリー	長所	
		件数 (%)	記述例
学びの広がり	参加した人の学び	7 (5.4)	<ul style="list-style-type: none"> ・事例提供者だけでなく、参加した人みんなが勉強になる。 ・当事者でなくても、自分ならではの考えることができるやり方だと思った。 ・さまざまな先生方の話が聞けて、自分も参考になることが多かった。
	自分の学級の参考	6 (4.6)	<ul style="list-style-type: none"> ・一人の子ども事例検討だったが、大事なことはどのクラスにも当てはまる。 ・自分のクラスの問題点と重ね合わせることもできた。
	理解の深まり	2 (1.5)	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな質問により、その子の理解が深まる。 ・前年度のことなど、自分が知らないことを知ることができた。
	責任・支援	2 (1.5)	<ul style="list-style-type: none"> ・前担任だったので、責任を感じる場所もあった。 ・2学期から学級運営ができるように支援したい。
	応用	2 (1.5)	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者との懇談会で使えそう。 ・他の場面でも応用可能か？
問題と方向性の共有	共同探索	6 (4.6)	<ul style="list-style-type: none"> ・知恵を出し合って解決の方法を探る方法として、大変興味深い。 ・具体的な改善策について皆で意見を出し合ったことに価値があった。 ・状況が整理でき、ある程度の方向性が見える。
	共有	5 (3.8)	<ul style="list-style-type: none"> ・問題や困り感を共有してもらえるので、気を楽しめる。 ・児童の情報を共有できて、気持ちが楽になった。 ・一人の児童のことを考え、担任の先生と思いを共有していく事は大切。
	共通理解	3 (2.3)	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな方面から考えることができ、共通理解ができる。 ・情報が共有しやすく、同じ土俵で意見交換ができる。

Table 1つづき② PCAGIP法を用いた事例検討のメリット（複数回答） N=41

カテゴリー	サブカテゴリー	長所	
		件数 (%)	記述例
温かな気持ち	負担軽減	6 (4.6)	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒントが得られると事例提供者の心理的な負担が軽くなる。 ・一人で抱えていた人がふっと心が軽くなる。
	一体感	3 (2.3)	<ul style="list-style-type: none"> ・一体感と深い信頼感が見られた。 ・全体で考えてくれている安心感や一体感を感じ、やる気に繋がる方法だと感心した。
	楽しさ	2 (1.5)	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しかったし、勉強になった。
	チーム学校	2 (1.5)	<ul style="list-style-type: none"> ・解決に導くために知恵を出し合うので、チーム学校としての団結力がより強くなる。 ・チーム学校として課題を捉えることができた研修会だった。
取り組みやすさ	安心	3 (2.3)	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が思ったことなどを自由に安心して言える。 ・気負うことなく安心して言える。
	分かりやすさ	3 (2.3)	<ul style="list-style-type: none"> ・とても分かりやすかった。
	深い検討	3 (2.3)	<ul style="list-style-type: none"> ・事例を絞ってじっくり検討することができる。 ・一つの事例に対して、細かいところまで掘り下げた話し合いができる。
	集中	2 (1.5)	<ul style="list-style-type: none"> ・メモをしないので、意見や考えをしっかりと聞いてまとめることができる。 ・聴くこと、考えること、話し合うことに集中することができた。

Table 2 PCAGIP法を用いた事例検討のデメリット（複数回答） N=41

カテゴリー	サブカテゴリー	短所	
		件数 (%)	記述例
結論のなさ	結論への思い	6 (15.0)	<ul style="list-style-type: none"> ・ どのようなやり方でかわっていくかなど、具体的なものも欲しい。 ・ 話し合いがまとまらないので、もやっとした気持ちも残る。 ・ しっかりとした結論は出ないものだと割り切れれば、それでいい。
	提案の難しさ	4 (10.0)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 想像ができないと、あまり良い意見が生まれ出せない。 ・ 提案者の先生は「わかってないからそんなこと言える」と思う部分もあるのでは？
時間の問題	時間の確保	6 (15.0)	<ul style="list-style-type: none"> ・ メリットは大きいですが、時間のかかることだと思う ・ 検討が必要な児童は少なくなく、時間の確保が難しい。 ・ 忙しくて、一つの事例について皆で意見を出し合うことはできない。
	検証する機会	3 (7.5)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2学期に取り組んでみて、検証する機会があればと思いました。 ・ この後の活動がどうなるか（やりっぱなし？）
メンバーの問題	偏り	3 (7.5)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 参加した人たちの意見、アイデアのみに限られる。 ・ 質問するときの内容が偏らないのか。
	子ども理解の違い	3 (7.5)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 詳しく知っている子どもの場合とそうでない場合の違いが出る。 ・ かかわりの経験豊富な人がいると、手立ても参考になる。
	メンバー次第	2 (5.0)	<ul style="list-style-type: none"> ・ メンバーによって、話しやすい、やりにくいなどがあるかもしれない。 ・ 本音と建前で話してしまった。
	知らない人の意見	1 (2.5)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童について全く知らない人からの意見を聞いたかった。
個人のおよび情報	発言内容の反省	3 (7.5)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 手立てを出し合う時に自分の失敗例を話せばよかった。 ・ 質問した意図も伝えた方がよいのかどうか、迷った。
	情報の問題	3 (7.5)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 不十分な不確実な情報しかない中での検討になった。 ・ 個人情報にかかわることが多くなるのが難しい。
	メモ	1 (2.5)	<ul style="list-style-type: none"> ・ ついメモを取りたくなる。
の発担当者		3 (7.5)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事例提案者の心理的な負担が大きい。 ・ たくさんの人に質問されて、担任の先生は大変だったという気がした。
困応難用		2 (5.0)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今回はFacが進めたが、誰でもできるわけではないので、いつでもどこでも使えるやり方ではない。

4. 考察

(1) PCAGIP 法を用いた事例検討のメリット

PCAGIP 法を用いた事例検討のメリットとしては、【視点の増加】をあげる参加者が多かった。参加者全員が発言するというルールを置いていたので、さまざまな質問に接し、自分の考えないような質問の視点に驚いたり、触発されたり、参加者の内面ではいろいろなことが起こったと考えられる。また、質問されることにより、触発されているいろいろな連想もわき、思わぬ視点も増えたと予想される。小学校の場合、もと担任や兄弟の担任等から、思わぬ情報が手に入る様子も見られた。

次にメリットとしてあげられたのが、【PCAGIP 法のルール】である。PCAGIP 法は村山・中田 (2012) が、事例提供者が事例検討会で被告にされているという問題意識から出発し、事例提供者を元気にするというコンセプトから考案したものである。「事例提供者を批判するような発言をしない」「板書をするのでメモを取らない」「全員参加で一人一発言で質問していく」「事例資料はいらない」質問に答えることによって事例理解を進めていく方法である。その良さがサブカテゴリーに「否定のない発言」「可視化」「全員一言」「準備の少なさ」と表われている。学校現場での応用であるが、PCAGIP 法の本来の持ち味がどの領域でも生きる可能性が示唆された。

【学びの広がり】というメリットは、PCAGIP 法を用いた事例検討が「わが身に置き換えてできる研修」であると坂本 (2011) が報告したことを支持した。本研究では『自分の学級の参考』になることや『参加した人の学び』になることが示された。坂本 (2011) は、教師が PCAGIP 法を用いた事例検討を体験することにより、自身の学級やかかわる児童・保護者との間でおこりうる問題等に対する構えを獲得できる可能性を示唆した。PCAGIP 法を用いた事例検討の体験から教員自身で問題を未然に防いだり、より良いクラス作りにつなげたりすることができるようになり、PCAGIP 法を用いた事例検討は予防的アプローチの可能性を含んでいると報告している。

【問題と方向性の共有】は【温かな気持ち】へと繋がっていく。「皆で事例的提供者の問題を共有し、改善策を模索していく」「知恵を出し合い、状況を整理し、方向性を見出そうと進めていく」ことにより、一体感を感じたり、全体で考えてくれる安心感を事例提供者は感じたりするようである。このような受容的雰囲気が高く感じるような場合は、「理解・発見」「省察」が高まると内藤 (2019) は述べている。また、南・松本 (2018) も PCAGIP 法による事例検討は教師の「被援助に対する懸念や抵抗感」を低下させる効果のあることを報告した。【温かな気持ち】へと繋げるメリットはいろいろな効果と結びついている。

そのような温かい雰囲気は「自分の思ったことなどを自由に安心して言える」ことになり、事例検討への【取り組みやすさ】にも結び付いていると考えられる。「メモをしないので、意見や考えをしっかりと聞いてまとめることができる」「聴くこと、考えること、話し合うことに集中することができる」「一つの事例に対して、細かいところまで掘り下げた話し合い

ができる」ことは「とても分かりやすかった」という結果になるように、実は【PCAGIP のルール】の中に仕込まれているとも言えよう。短い時間でありながら、PCAGIP 法を用いた事例検討終了後に和気あいあいとした雰囲気になり会話も弾むのは、PCAGIP という方法が安全感が高く温かな気持ちに繋がるように作られているため、その結果として参加者が元気になるという大きな賜物を受け取ることができると考えられる。

（２）PCAGIP 法を用いた事例検討のデメリット

PCAGIP 法を用いた事例検討のデメリットとして、【結論のなさ】【時間の問題】【メンバーの問題】の3つが大きくあげられた。PCAGIP 法を用いた事例検討では、事例提供者が参加者からの発言によって問題解決へのヒントを見出し、今後の取り組みに対する活力を持てるようになる（坂本，2011）ことを目指すもので、解決策を見つけることを目的にしている。事例提供者が元気になることをコンセプトとしている。しかし、学校現場の場合、生徒指導が中心となることが多く、問題を抱えている生徒の対応に指導の方針を決め、ある程度のはっきりとした方向性を見出すことが多い。結論を出さずに終わる PCAGIP 法を用いた事例検討は、「もやっとした気持ちが残る」「どういうやり方でかかわっていくかなど、具体的なものもほしい」と記述されるのは当然であろう。ただ、このような記述になったことに関しては、筆者のファシリテーターとしての進め方に問題がなかったのか、十分考えなければならない。

藤中（2022）が教育現場で PCAGIP 法を用いる時にもっとも課題となることとして【時間の問題】をあげている。十分時間をかけなければ PCAGIP 法によって到達できる深みに到達できなくなる可能性が高いと述べている。藤中（2022）は、事例提供者に寄り添うことを大切にして、一人一つずつの質問を繰り返し、事例を深めていく。それで起こってくるのが“事例の理解の深まり” “事例に対する視野の広がり” “参加者全体の共同意識の高まり” “事例提供者の自己肯定感の高まり” “事例提供者の被受容感の高まり” “事例提供者の自己効力感の高まり”である。時間をかけてやるのが大切で 120 分は必要であると述べている。60 分では共同作業による事例理解のプロセスは起こりにくいことを指摘している。今回の筆者の PCAGIP 法を用いた事例検討会は 60 分程度だったため、事例提供者の自己肯定感の高まりは起こりにくかったかもしれない。

PCAGIP 法を用いた事例検討の場は「エンカウンター・グループの体験の場とみなす」と村山・中田（2012）が述べている。エンカウンター・グループのグループプロセスも短い時間ではグループプロセスが進まないことが述べられ（野島，2000），ピカジップ法を用いた事例検討で事例理解のプロセスが深まらない場合と同様であると考えられる。野島（2000）は、グループプロセスが進まない理由を時間以外にも三つあげ、「メンバーの問題」「ファシリテーターの問題」「メンバーとファシリテーターの相性の問題」をあげている。実際に本研究でデメリットとして分析したカテゴリーの中に【メンバーの問題】があげられ、「メ

ンバーによって話しやすい、やりにくいなどがあるかもしれない」と述べている。

また【発表者の負担】もあげられ、「たくさんの人に質問されて、担任の先生は大変だったという気がした」と記述されている。事例提供者を元気にするというコンセプトのもとで始められたにもかかわらず、大変に見えたということは事例提供者が被告になっていた可能性も考えられ、ファシリテーターとして事例検討の場の雰囲気には十分配慮できていたのか、問題となるところである。

以上のことから、本研究では PCAGIP 法を用いた事例検討の時間の短さも問題としてあげられる一方、メンバー、ファシリテーターの問題についても十分検討すべき問題であることが示唆された。

5. 今後の課題

小学校で行った PCAGIP 法を用いた事例検討のメリットとデメリットについて述べてきた。60 分くらいの短い時間の中で行った事例検討であったため、120 分かけて行った PCAGIP 法を用いた事例検討とは事例提供者の自己肯定感や自己効力感などに大きな違いが出たと推察されるが、今後はそれを実証的に明らかにすることが望まれる。

中山（2021）は事例提供者を体験して、「社会変化の激しいこの世の中には正解などというものは無いが、問題を解決するために『何かをする（doing）』というよりも、自分や相手への理解を深めてよりよく自分自身を生きていくために「どうある（being）」かを探究していくなかで、それぞれの人にとって自分の生きていく道を見出せる大事な何かが生まれてくるのではないかと PCAGIP を通して考えた」と述べている。藤中（2022）が事例提供者に寄り添い、事例を深く理解することに時間をかけることこそが重要で、そのありようはクライアント中心療法のカウンセリングそのものであると述べた。事例提供者に寄り添い、事例提供者が抱えている事例と一緒に深く理解していく本物の PCAGIP 法を用いた事例検討こそが、中山（2021）のいう道を見出せる大事な何かが生まれてくることに繋がると考えられる。

しかし、時間の確保が難しい学校現場では、どのように工夫すれば短い時間で事例を深く理解し、事例提供者の自己肯定感を高めることができるのであろうか。本研究では、時間の短さ以外にファシリテーター、メンバーの問題が浮上してきた。メンバー相互の関係性、ファシリテーターとの関係性、ファシリテーターの進め方などを丁寧に記述し、プロセスをたどるような事例研究を積み上げる必要があるのではないだろうか。

引用文献

藤中隆久（2022）. 学校の事例検討会に PCAGIP 法を適用することの考察 熊本大学教育実践紀要, 39, 127-134.

- 川喜多次郎(2017). 発想法 改版 創造性開発のために 中公新書
- 南 雅則・松本 剛(2018). 中学校教師を対象とした PCAGIP 法を用いた事例検討の効果に関する研究 北陸学院大学・北陸学院大学短期大学部研究紀要, 11, 113-120.
- 村山正治・中田行重(2012). 新しい事例検討法 PCAGIP 入門 パーソン・センタード・アプローチの視点から 創元社
- 内藤裕子(2019). 養護教諭養成における PCAGIP 法の活用と効果 (3) -効果測定尺度と効果要因の検討- 教職研究, 2019, 15-23.
- 中山美恵子・村山正治(2021). PCAGIP 事例提供者を体験して 東亜臨床心理学研究, 2, 43-46.
- 野島一彦 (2000). エンカウンター・グループのファシリテーション ナカニシヤ出版
- 坂本真也 (2011). スクールカウンセリングにおける教員研修の実践に関する研究- PCAGIP 法を参考にした事例検討について- 人間と環境, 2, 85-95.